帝塚山学院大学の教育方針（３つのポリシー）

教育理念

本学は、教育基本法及び学校教育法の規定するところに従い、『力の教育』、すなわち意志の力、情の力、知の力、躯幹の力を含む全人教育を以て有為な人材を社会に送り出すという帝塚山学院建学の精神を継承しながら、豊かな教養を身につけ自学自習の教育によって求知心を育み、社会に貢献し得る品性高い人材を養成することを目的とする。

目指すべき人材像

建学の精神「力の教育」「自学主義」に基づき鍛えられた「社会貢献への意思と力」、そしてレジリエンスと気品をそなえた人物

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

リベラルアーツ学部

リベラルアーツ学科

リベラルアーツ学科は、以下の能力や知識・技能を有していることを学位授与の基準とする。

（関心・意欲・態度）

1. 社会を広い視野から理解し、社会に貢献する意欲と行動力を備えていること。（社会貢献力）
2. 目標実現に向けて、自分自身を冷静・客観的に理解する力を持っていること。（自己理解力）
3. 心身両面の健康性、ストレス・マネージメントの知識と実践力を持っていること。（健康管理力）
4. 組織の中で、自らの役割を認識し、仲間と協調できる力を持っていること。（協調性）
5. 主体的に問題や課題に取り組み、解決に向けて、自主的に行動できる力を持っていること。（主体的行動力）
6. 社会で活躍できるための基本的なマナーを身につけていること。（社会的マナー）
7. 日本と世界の文化、歴史への関心を持ち、それらを学ぶことへの意欲があること。
8. 外国語を学ぶことへの意欲があること。
9. ことばや造形手段を用いて表現する意欲があること。

（思考・判断・表現）

1. 論理的で明瞭な思考と冷静な判断ができる力を持っていること。（論理的思考力）
2. 自分の考えや思いを表現する力を持っていること。（自己表現力）
3. 社会の問題に対して、PDCA サイクルで行動できる力を持っていること（問題解決力）
4. 資料を批判的に検証し、事実を解き明かしていけること。

（技能（表現））

1. 日本語で、自分の考えを口頭や文章でわかりやすく表現、討論できる力を持っていること。（日本語力）
2. 英語を用いて、コミュニケートする力を持っていること。（英語力）
3. 情報機器などに対する操作スキルを有し､諸問題に ICT を活用できる力を持っていること｡(情報リテラシー)
4. 外国語を使って自分を表現し、日本語非母語話者とコミュニケーションができること。
5. さまざまな手法を使って造形作品を創作できること。
6. 日本語を使って文学作品を創作できること。
7. 外国語や古語で書かれた文章を翻訳・解釈できること。

（知識・理解）

1. 人文・社会・自然分野などでの一般的知識、教養を持っていること。（一般教養力）
2. 社会や文化に関心を持ち、多角的視点から現実社会や課題を理解する力を持っていること。（社会理解力）
3. 人間、文化、社会の諸問題を科学的に捉える力を備えていること。（科学的理解力）
4. 日本の文化、歴史について深い知識と理解を有していること。

5. 文学作品や芸術作品を読み解き、深く理解できること。
6. 外国の文化と歴史について知識を持ち、それに基づいて公正な理解ができること。
7. 現代の文化への広い知識を持ち、それらを柔軟に理解できること。
8. 子どものための文学、絵本、マンガ、アニメーションの歴史と現状についての知識を持ち、それらの特質を理解していること。

人間科学部
キャリア英語学科

キャリア英語学科は、実践的な英語力を身につけ、「仕事」に活かすことのできる人材の養成を目的としている。そのため、以下の能力や知識・技能を有していることを学位授与の基準とする。

（関心・意欲・態度）

1. 社会を広い視野から理解し、社会に貢献する意欲と行動力を備えていること。（社会貢献力）
2. 目標実現に向けて、自分自身を冷静・客観的に理解する力を持っていること。（自己理解力）
3. 心身両面の健康性、ストレス・マネージメントの知識と実践力を持っていること。（健康管理力）
4. 組織の中で、自らの役割を認識し、仲間と協調できる力を持っていること。（協調性）
5. 主体的に問題や課題に取り組み、解決に向けて、自主的に行動できる力を持っていること。（主体的行動力）
6. 社会で活躍できるための基本的なマナーを身につけていること。（社会的マナー）
7. 異文化に関心を持ち、英語の能力を生かして世界で活躍しようとする意欲があること。

（思考・判断・表現）

1. 論理的で明瞭な思考と冷静な判断ができる力を持っていること。（論理的思考力）
2. 自分の考えや思いを表現する力を持っていること。（自己表現力）
3. 社会の問題に対して、PDCA サイクルで行動できる力を持っていること（問題解決力）
4. ビジネスキャリアや教育キャリアの領域において、問題解決する方法やプロセスを理解していること。

（技能（表現））

1. 日本語で、自分の考えを口頭や文章でわかりやすく表現、討論できる力を持っていること。（日本語力）
2. 英語を用いて、コミュニケートする力を持っていること。（英語力）
3. 情報機器などに対する操作スキルを有し､諸問題に ICT を活用できる力を持っていること｡(情報リテラシー)
4. 国際化が進む社会や英語教育の場で活躍するための英語運用能力が身についていること。
5. 社会で必要となる職務遂行能力と業務処理能力、及び各種技能が身についていること。

（知識・理解）

1. 人文・社会・自然分野などでの一般的知識、教養を持っていること。（一般教養力）
2. 社会や文化に関心を持ち、多角的視点から現実社会や課題を理解する力を持っていること。（社会理解力）
3. 人間、文化、社会の諸問題を科学的に捉える力を備えていること。（科学的理解力）
4. 英語教育に関する専門知識を身につけていること。
5. 国際ビジネス、サービスビジネスに関する専門知識を身につけていること。

情報メディア学科

情報メディア学科は、以下の能力や知識・技能を有していることを学位授与の基準とする。

（関心・意欲・態度）

1. 社会を広い視野から理解し、社会に貢献する意欲と行動力を備えていること。（社会貢献力）
2. 目標実現に向けて、自分自身を冷静・客観的に理解する力を持っていること。（自己理解力）
3. 心身両面の健康性、ストレス・マネージメントの知識と実践力を持っていること。（健康管理力）

4. 組織の中で、自らの役割を認識し、仲間と協調できる力を持っていること。(協調性)
5. 主体的に問題や課題に取り組み、解決に向けて、自主的に行動できる力を持っていること。(主体的行動力)
6. 社会で活躍できるための基本的なマナーを身につけていること。(社会的マナー)
7. 情報機器、マルチメディア、コンテンツ作成などに関心を持っていること。
8. ソーシャルメディアなど情報社会の問題に関して関心を持っていること。

(思考・判断・表現)
1. 論理的で明瞭な思考と冷静な判断ができる力を持っていること。(論理的思考力)
2. 自分の考えや思いを表現する力を持っていること。(自己表現力)
3. 社会の問題に対して、PDCA サイクルで行動できる力を持っていること (問題解決力)
4. 情報収集・整理・分析し、自らの考えを情報発信できること。

(技能 (表現))
1. 日本語で、自分の考えを口頭や文章でわかりやすく表現、討論できる力を持っていること。(日本語力)
2. 英語を用いて、コミュニケートする力を持っていること。(英語力)
3. 情報機器などに対する操作スキルを有し､諸問題に ICT を活用できる力を持っていること｡(情報リテラシー)
4. 情報システムや情報通信ネットワークの構築のための技能を有すること。
5. Web デザイン、映像などのコンテンツ制作のための技能を有すること。

(知識・理解)
1. 人文・社会・自然分野などでの一般的知識、教養を持っていること。(一般教養力)
2. 社会や文化に関心を持ち、多角的視点からと現実社会や課題を理解する力を持っていること。(社会理解力)
3. 人間、文化、社会の諸問題を科学的に捉える力を備えていること。(科学的理解力)
4. 情報機器及び情報処理のしくみに対する知識を有すること。
5. 情報システムや情報通信ネットワークに対する知識を有すること。
6. 画像、デザイン、サウンド、映像などのコンテンツ制作の知識を有すること。
7. 情報やメディアの特徴を理解し、表現法に対する知識を有していること。

心理学科

心理学科は、以下の能力や知識・技能を有していることを学位授与の基準とする。

(関心・意欲・態度)
1. 社会を広い視野から理解し、社会に貢献する意欲と行動力を備えていること。(社会貢献力)
2. 目標実現に向けて、自分自身を冷静・客観的に理解する力を持っていること。(自己理解力)
3. 心身両面の健康性、ストレス・マネージメントの知識と実践力を持っていること。(健康管理力)
4. 組織の中で、自らの役割を認識し、仲間と協調できる力を持っていること。(協調性)
5. 主体的に問題や課題に取り組み、解決に向けて、自主的に行動できる力を持っていること。(主体的行動力)
6. 社会で活躍できるための基本的なマナーを身につけていること。(社会的マナー)
7. 人間の心や行動、社会的現象に関して強い関心を持ち、それらについて主体的に理解しようとする態度を身につけていること。
8. 他者に共感し思いやりや配慮ができること。
9. 人間福祉・健康の増進への意思と倫理観をもっていること。

(思考・判断・表現)
1. 論理的で明瞭な思考と冷静な判断ができる力を持っていること。(論理的思考力)
2. 自分の考えや思いを表現する力を持っていること。(自己表現力)
3. 社会の問題に対して、PDCA サイクルで行動できる力を持っていること (問題解決力)
4. 人間の心や行動・社会の諸現象を心理学の立場から分析・判断し、それらを文書で表現し、発表できること。

5. 心理学的な仮説を立て、それを検証するための研究計画を立案・実行し、データを分析し考察できること。

（技能（表現））

1. 日本語で、自分の考えを口頭や文章でわかりやすく表現、討論できる力を持っていること。(日本語力)
2. 英語を用いて、コミュニケートする力を持っていること。(英語力)
3. 情報機器などに対する操作スキルを有し､諸問題に ICT を活用できる力を持っていること｡(情報リテラシー)
4. 心理・行動分析のための情報処理リテラシーを身につけていること。
5. 他者との共同の中で、自分の考えや研究・活動成果を論理的に説明し表現する力、スキルを身につけていること。
6. 心理学の知見に基づいたコミュニケーション能力や人間関係を形成する能力を身につけていること。

（知識・理解）

1. 人文・社会・自然分野などでの一般的知識、教養を持っていること。(一般教養力)
2. 社会や文化に関心を持ち、多角的視点から現実社会や課題を理解する力を持っていること。(社会理解力)
3. 人間、文化、社会の諸問題を科学的に捉える力を備えていること。(科学的理解力)
4. 人間の心理・行動・社会の諸現象を心理学的に理解するための知識を十分に習得していること。
5. 人間の心理・行動を分析するための科学的・統計的知識を有していること。
6. 自らの進路に即した知識を見極め，社会で活躍するための素地を身につけていること。

食物栄養学科 管理栄養士課程

食物栄養学科管理栄養士課程は、以下の能力や知識・技能を有していることを学位授与の基準とする。

（関心・意欲・態度）

1. 社会を広い視野から理解し、社会に貢献する意欲と行動力を備えていること。(社会貢献力)
2. 目標実現に向けて、自分自身を冷静・客観的に理解する力を持っていること。(自己理解力)
3. 心身両面の健康性、ストレス・マネージメントの知識と実践力を持っていること。(健康管理力)
4. 組織の中で、自らの役割を認識し、仲間と協調できる力を持っていること。(協調性)
5. 主体的に問題や課題に取り組み、解決に向けて、自主的に行動できる力を持っていること。(主体的行動力)
6. 社会で活躍できるための基本的なマナーを身につけていること。(社会的マナー)
7. 意欲的、積極的に学修ができ、継続性が伴うこと。
8. ヒトの健康に関わる問題に深い関心を持ち、強い意欲を持って食物や栄養の観点からその問題解決を積極的に進めることができること。
9. 医療・保健福祉施設などの現場では、相手の立場に配慮し、深い思慮を持って物事を進めることができること。

（思考・判断・表現）

1. 論理的で明瞭な思考と冷静な判断ができる力を持っていること。(論理的思考力)
2. 自分の考えや思いを表現する力を持っていること。(自己表現力)
3. 社会の問題に対して、PDCA サイクルで行動できる力を持っていること（問題解決力）
4. 医学を含めた科学的知識を通して、問題解決にあたることが出来る思考・判断力を有していること。
5. NST などの医療チームの中で、各自の役割を把握し、協調性をもってその場に適した思考・判断ができること。
6. 栄養管理などにおいては、的確・確実な指導が出来る思考・判断力を有すること。
7. 給食大量調理などにおいては、栄養ならびに経済に関わる緻密な思考・判断力を有すること。
8. 食品の生育・生産から、加工・調理を経て、人に摂取されるまでの過程について、人体に対しての栄養面や安全面などへの影響を考え、評価をすることができること。

（技能（表現））

1. 日本語で、自分の考えを口頭や文章でわかりやすく表現、討論できる力を持っていること。（日本語力）
2. 英語を用いて、コミュニケートする力を持っていること。（英語力）
3. 情報機器などに対する操作スキルを有し､諸問題に ICT を活用できる力を持っていること｡(情報リテラシー)
4. 問題解決にあたり、科学的な知識・技術を駆使し、相手に説明できる表現力を有すること。

（知識・理解）

1. 人文・社会・自然分野などでの一般的知識、教養を持っていること。（一般教養力）
2. 社会や文化に関心を持ち、多角的視点から現実社会や課題を理解する力を持っていること。（社会理解力）
3. 人間、文化、社会の諸問題を科学的に捉える力を備えていること。（科学的理解力）
4. 食物と栄養に関わる十分な知識を有し、それらを応用・適用することができること。
5. 身の回りにある食物や栄養に関する諸事を把握し、その内容を理解することにより情報の真偽を判断することができること。

食物栄養学科 健康実践栄養士課程

食物栄養学科健康実践栄養士課程は、以下の能力や知識・技能を有していることを学位授与の基準とする。

（関心・意欲・態度）

1. 社会を広い視野から理解し、社会に貢献する意欲と行動力を備えていること。（社会貢献力）
2. 目標実現に向けて、自分自身を冷静・客観的に理解する力を持っていること。（自己理解力）
3. 心身両面の健康性、ストレス・マネージメントの知識と実践力を持っていること。（健康管理力）
4. 組織の中で、自らの役割を認識し、仲間と協調できる力を持っていること。（協調性）
5. 主体的に問題や課題に取り組み、解決に向けて、自主的に行動できる力を持っていること。（主体的行動力）
6. 社会で活躍できるための基本的なマナーを身につけていること。（社会的マナー）
7. 食品・食文化に関する基礎的な知識を身につけていること。

（思考・判断・表現）

1. 論理的で明瞭な思考と冷静な判断ができる力を持っていること。（論理的思考力）
2. 自分の考えや思いを表現する力を持っていること。（自己表現力）
3. 社会の問題に対して、PDCA サイクルで行動できる力を持っていること（問題解決力）
4. 栄養士を基盤とした専門家として、人々の健康の保持増進に幅広く貢献するために、社会で直面する課題を深く考えぬき、論理的思考に基づいて適切な対策を立案できること。
5. 医学を含めた科学的な知識を通して、問題解決にあたることができる思考・判断力を持っていること。
6. 栄養管理などにおいて、的確・確実な指導ができる思考・判断力を持っていること。
7. 食品の生育・生産から、加工・調理を経て、人に摂取されるまでの過程について、人体に対しての栄養面や安全面などへの影響を考え、評価をすることができること。

（技能（表現））

1. 日本語で、自分の考えを口頭や文章でわかりやすく表現、討論できる力を持っていること。（日本語力）
2. 英語を用いて、コミュニケートする力を持っていること。（英語力）
3. 情報機器などに対する操作スキルを有し､諸問題に ICT を活用できる力を持っていること｡(情報リテラシー)
4. 栄養士を基盤とした専門家として、自己管理能力、問題解決能力、指導力を発揮できること。
5. 栄養学の正しい知見、ならびに専門家として必要な調理理論と実践的調理技術を修得していること。
6. 商品・メニュー開発、飲食店の企画・運営をする理論や方法論・技術を修得していること。
7. 問題解決に向けて、科学的および栄養学的な知識・技術を駆使し、相手に説明できる表現力を持っていること。

（知識・理解）

1. 人文・社会・自然分野などでの一般的知識、教養を持っていること。（一般教養力）
2. 社会や文化に関心を持ち、多角的視点から現実社会や課題を理解する力を持っていること。（社会理解力）
3. 人間、文化、社会の諸問題を科学的に捉える力を備えていること。（科学的理解力）
4. 栄養士を基盤とした専門家に必要な専門的知識を持っていること。
5. 身の回りにある食物や栄養、運動に関する諸事を把握し、その内容を理解することにより情報の真偽を判断することができること。
6. 国際的な視点に立って、食生活や地域社会の課題を抽出し、解決方法を構想・提案できる能力を持っていること。
7. 食の専門家としての倫理観を持っていること。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

全学共通

帝塚山学院大学は、教育理念に従い、下記の方針の共通科目カリキュラムを提供している。

・日本語力を養成するため、導入学習分野に必修科目を設置する。
・情報化社会で必要な情報リテラシーを養成するため、情報処理分野に必修科目を設置する。
・グローバル社会の中で必要な英語力を養成するため、外国語分野で英語を必修科目とする。
・自己表現力、主体的行動力、社会的マナーなどを養成するため、「基礎演習」を設置する。
・社会貢献力、自己理解力、協調性、自己表現力などを養成するため、キャリア形成分野に必修科目を設置する。
・一般教養力、科学的理解力などを養成するため、人文・社会・自然分野の科目を設置する。
・健康管理力を養成するため、健康管理分野の科目を設置する。

リベラルアーツ学部

リベラルアーツ学科

リベラルアーツ学科は、下記の方針のカリキュラムを提供している。

・総合教養教育としての「リベラルアーツ」とは何かを知り、本学科で学べることのあらましと意義などを理解できるよう「リベラルアーツ入門」を設置する。
・より専門的な内容でディスカッションやプレゼンテーションを行う能力を養うこと、論理的に思考して適切な判断を下すことや資料を批判的に検証して事実を解き明かすことなど、研究に必要な基本的態度を学ぶため、専攻ごとに「専門基礎演習」「専門応用演習」「卒業演習」などを必修科目として設置する。また、学んできたことの集大成を論文や作品の形にする「卒業研究」を置く。
・現代日本語や古語で書かれた文学作品を読んでより深く理解できるように、概論の授業に加えて、「日本文学特講」「近代文学講読」「古典文学講読」「漢文学講読」「近代文学作品研究」「物語の心理学」などを設置する。
・ことばで表現する意欲を高め、日本語を使って文学作品を創作するスキルを身につけるため、「創作研究（ライトノベル／小説）」など専門家から指導が受けられる科目を設置する。
・中学校・高等学校の国語科教員や図書館司書、日本語教員養成課程のため、日本文学に関する科目の他、「書道及び書道史」「日本事情」「社会と言語」「日本語と外国語」などを設置する。
・日本の文化、歴史を学ぶ意欲を高め、史実と虚構の区別ができ、幅広い知識をもって柔軟で公正な理解ができるようになるため、概論や事例研究の科目に加え、「日本文化史」「日本伝統文化」「日本史特講」「近現代史」などを設置する。
・外国語を学ぶ意欲を高め、外国語を使って自分を表現し、外国人とコミュニケーションができるように、共通科目の外国語分野に加え、「インテンシブ中国語／韓国語」「中国語／韓国語研究」などを設置し、さらに「留学準備講座」を経て、カリキュラム内で半年留学ができるようにする。
・外国の文化と歴史についての知識を持ち、それに基づいて公正な理解ができるように、「現代中国事情」「中国の社会と文化」「現代韓国事情」「韓国の社会と文化」「現代日韓文化交流論」「日中韓異文化理解研究」「東アジア関係史」などを設置する。

・芸術作品について幅広い知識を身につけるため、美学や日本、東洋、西洋の美術史に関する概論に加え、「比較芸術論」「芸術情報論」「芸術文化論」「現代アート論」「映画論」などを設置する。
・さまざまな手法を使って造形作品を創作できるよう、グラフィックデザインの科目、「アート表現技法」「造形表現」「ワークショップ（造形基礎)」などを設置する。
・子どものための文学、絵本、マンガ、アニメーションの歴史と現状についての知識を持ち、それらの特質を理解するため、児童文学の概論、歴史、作品研究、講読などの科目に加え、「絵本論」「アニメーション論」「マンガ論」「児童信頼学」「創作研究（児童文学／絵本をつくる)」などを設置する。
・教室で学んだことを、実際に現地を訪れて観察・体験することで深く学べるよう、「フィールドスタディーズ」を設置し、専攻ごとに国内外で実施する。

人間科学部
キャリア英語学科

キャリア英語学科は、実践的な英語力を「仕事」に活かし、社会に貢献できる人材の養成を目的としている。そのため、下記の方針のカリキュラムを提供している。

・実践的な英語力を身につけて、英語運用能力を高めるため、プラクティカル・イングリッシュ・プログラムを基礎科目に設置する。
・TOEIC®TEST などの英語資格試験の攻略方法を実践的に学ぶため、プロフェッショナル・イングリッシュ・プログラムを基礎科目に設置する。
・学科の特色である英語圏での研修・留学を通してコミュニケーション力と異文化理解力を高めるため、グローバル・イングリッシュ・プログラムを基礎科目に設置する。
・キャリアを形成するために必要な基本知識とマナー、およびビジネスやサービスビジネスの基礎知識を学ぶため、基幹科目を設置する。
・国際ビジネスやサービスビジネスに必要な専門知識について学ぶとともに、英語で自分の考えを論理的に伝え、英語でのプレゼンテーションを学ぶためのビジネスキャリア系科目を展開科目に設置する。
・英語教育方法や教育技術を学ぶとともに、TOEIC®TEST などの英語資格試験の目標スコアを獲得するため、教育キャリア系科目を展開科目の中に設置する。
・少人数の教育環境で現状分析力、情報調査力、課題解決力、マネジメント力を身につけ、卒業研究を行うための演習科目を設置する。

情報メディア学科

情報メディア学科は、自分のめざす方向性にあわせて、以下の3つの系を横断的に学べるカリキュラムを提供している。

（情報ツール系）
・スマホやパソコンのソフト制作に対する知識やスキルを習得する。
・コンピュータや情報処理のしくみに対する知識を習得する。
・情報システムや情報通信ネットワークの構築に関する知識やスキルを習得する。

（情報コンテンツ系）
・画像、デザイン、サウンド、映像などの知識を習得する。
・Web デザイン、映像コンテンツなどの制作に必要な機器やソフトの操作を習得する。

（メディア・コミュニケーション系）
・ソーシャルメディアやマスコミに対する知識や新聞・放送・広告の特質を習得する。
・広告表現に対する知識と企画表現力を習得する。

心理学科

心理学科は、心理学の知識と技能、および健康科学・社会福祉の知識を習得し、現代社会における心の問題を全体的かつ多角的に把握するとともに、豊かな人間性をもって取り組むことのできる人材の養成を目的としている。そのために体系的・段階的かつ多様性をもったカリキュラムを提供している。（カッコ内は 2017 年度以前入学生カリキュラム科目名）

・カリキュラムの体系は、一回生必修の「心理学概論」で幅広い心理学領域に触れることから始まる。科学的な心理学の思考と方法を理解するために「心理学基礎実験」「心理調査概論」「心理学統計法Ⅰ（心理統計基礎）」といった実験・調査・統計に関する科目を一回生時から設置する。

・二回生以降の科目群を（１）認知・行動科学、（２）発達・健康科学、（３）臨床心理・犯罪心理という３つの大きな学びの分野で構築する。それぞれの分野では、順次、基礎から専門・発展的な科目へと段階を追って学べるように科目を編成する。

（１）認知・行動科学分野では、「神経・生理心理学／知覚・認知心理学（認知心理学Ⅰ・Ⅱ）」「学習・言語心理学／行動心理学（行動心理学Ⅰ・Ⅱ）」を始めとして、人間の基本的な心的過程およびそれによって生じる行動について理解するための知識と、それを科学的に分析するための技法を学ぶ。

（２）発達・健康科学分野では、「発達心理学（生涯発達心理学）」「健康・医療心理学（健康心理学）」を始めとして、発達段階を追って人間を理解するとともに、心身の健康およびその形成プロセスを学ぶ。

（３）臨床・犯罪心理学分野では、「臨床心理学概論（臨床心理学）」「感情・人格心理学（人格心理学）」「心理的アセスメント（心理アセスメント法）」を始めとして、心の悩みや問題を理解し、専門的に対応するための知識と技法を習得するとともに、社会への不適応や問題行動、異常心理や精神病理の仕組みまでを学ぶ。

・三回生以降の「専門演習」「卒業演習」（演習科目）において、それぞれの分野における専門的な知識を自らの興味関心に沿って深めるとともに、心理学的な研究と分析の方法を自主的・主体的に学ぶ。

・理論的学習における一貫性を保つとともに学びの幅や多様性を確保するため、「文化人類学」「比較行動学」「地域援助論」および社会福祉分野の専門科目、健康スポーツの実践科目など、心理学近接領域の科目を二回生以降に配置する。

・教職課程（養護教諭一種、中高一種〈保健〉）では、心と身体の両面にアプローチできる教員を育成するために、心理学科専門科目のうち、「教育・学校心理学（教育心理学Ⅱ）」「「臨床心理学概論（臨床心理学）」「心理演習（臨床心理学実習）」「精神医学」「心理学的支援法（カウンセリング論）」などの科目の履修を強く勧めるとともに、以下のことが必須のカリキュラムである。

・学校保健・養護教育の基礎を学ぶ。
・看護学の基礎及び看護技術を身につける。
・基礎医学（解剖生理学、薬理学、微生物学など）について学ぶ。
・救急処置について理解し、救急対応を学ぶ。
・医療現場での実習で看護技術を身につける。

食物栄養学科 管理栄養士課程

食物栄養学科管理栄養士課程は、食と栄養を通して人々の健康の維持・増進、また疾病の予防・改善に貢献できる専門知識を体系的に学習するための専門基礎分野群と、さらに専門性を高めるための専門分野群を設けて専門教育の充実を図るカリキュラムを提供している。加えて、人間栄養学の基本に則って高度な対人栄養指導ができ、医療チームにおいては栄養管理ができる管理栄養士を育てるためのカリキュラムを提供している。さらに、研究能力や実践力を高めるためのカリキュラムを提供している。

また、「栄養」と「心理」・「情報」を学ぶことができるように、隣接分野の科目を選択科目として学習できるカリキュラムも提供している。

・管理栄養士の基礎力となる人体の構造と機能を理解するため「解剖生理学」「生化学」「病理学」「運動生理学」などを、さらには社会・環境と健康との関わりを理解するため「公衆衛生学」「社会福祉論」などを専門基礎分野に設置する。

・近隣の医学部付属病院の施設で「解剖学実習」を実施する。

・管理栄養士の実践力となる「基礎栄養学」「応用栄養学」「臨床栄養学」「給食経営管理論」さらには「栄養教育論」「公衆栄養学」などを専門分野に設置する。

・研究能力、自学自習や高度なプレゼンテーション能力を身につけるため、「卒業研究」「臨地実習」を必修科目として設置する。
・管理栄養士国家試験合格や卒業後の社会適応力を養成するため、「管理栄養士特別演習」を必修科目として設置する。
・栄養教諭、健康運動実践指導者、フードスペシャリストなどの資格、そして食品衛生管理者、食品衛生監視員などの任用資格も取得できるように、関連科目を設置する。
・各種現場における心の状況を把握するため、「健康心理学」「カウンセリング論」を専門分野に設置する。

食物栄養学科 健康実践栄養士課程

食物栄養学科健康実践栄養士課程は、ディプロマ・ポリシーに掲げる能力や資質をのばすとともに、学生一人ひとりの能力を最大限に引き出し、それぞれの興味や関心に従って自己の進路を切り開く力をつけることができるようカリキュラムを提供している。

・栄養士としての基盤となる能力を培う専門分野科目では、生物学的な観点から人体の構造や生理を理解し、食品成分とその有効性を中心に学ぶ。
・実習科目や学外実習を配置して、栄養士としての能力を身につけて社会で活躍できる実践力を養う。
・健康運動、フードビジネスの領域科目を展開し、健康を多面的にとらえ、社会的、文化的生活の質の向上に貢献する能力を養う。
・目標として設定したキャリアの実現に向けて、種々の資格取得のためのカリキュラムや研究活動の基礎を学ぶ講座を配置する。
・演習科目は 3 年次の「専門演習」と 4 年次の「卒業演習」と「卒業研究」とを連続した科目とし、各自が研究テーマを設定して専門的な研究をすすめ、ディプロマ・ポリシーに示した能力や知識・技能を身につけることができるように導く。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

全学共通

帝塚山学院大学では、本学の教育理念を十分に理解しているとともに、幅広く深い教養と豊かな人間性を育むうえでの基礎的な学力ならびに、各学科のディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく専門教育へのレディネスを備えていることを入学者選抜の基準とする。

リベラルアーツ学部

リベラルアーツ学科

リベラルアーツ学科では、本学科の教育目標・内容を理解し、それにふさわしい基礎学力を有することを入学者選抜の基準とする。

「求める学生像」を次のとおり定める。

・幅広く深い教養と豊かな人間性を育み、言語力及び情報リテラシー力を身につけ、地域社会及び国際社会に貢献したいという意欲を持っていること。

人間科学部

キャリア英語学科

キャリア英語学科では、グローバル化、情報化する現代社会において、実践的な英語力を「仕事」に活かし、社会に貢献できる人材の養成を目的としている。そのため、英語力を中心とする基礎学力を有することを入学者選抜の基準とする。

「求める学生像」を次のとおり定める。

・英語に興味を持ち、英語を伸ばしたい学生。
・「英語」を活用した職業をめざしグローバル社会で活躍したい学生。
・中学校・高等学校の英語科教員志望の学生。
・海外研修・留学・インターンシップを体験し、国際感覚を身につけたい学生。

情報メディア学科

情報メディア学科では、情報メディアの特徴や特性を理解し、そのさまざまな活用法を通して、新しい情報社会を創造していく人材の養成を目的としている。そのため、それにふさわしい基礎学力を有することを入学者選抜の基準とする。

「求める学生像」を次のとおり定める。

・スマホ、パソコン、ネットを道具として活用することに興味があること。
・画像、サウンド、デザイン、映像などのコンテンツ制作や Web を活用した情報発信に興味があること。
・ソーシャルメディアと放送・報道・広告の融合や将来の情報メディアのあり方に関心があること。

心理学科

心理学科では、高等学校までの教育課程を修得し、心理学を学び始めるための基礎学力を有することを入学者選抜の基準とする。

「求める学生像」を次のとおり定める。

・客観的に物事を考えられること。
・相手の立場に立って、自らの考えを伝えられること。
・体験的に学ぶ姿勢を持ち、自ら進んで挑戦することができること。
・人のこころに対する関心と探究心を持っていること。

食物栄養学科 管理栄養士課程

食物栄養学科管理栄養士課程では、「食」、「栄養」に関する高度な専門的知識と総合的なマネジメント力を有し、医療施設、介護保健・福祉施設、保育園・学校・企業などの給食施設、保健所・保健センターなどで管理栄養士として活躍できる人材の養成を目的としている。そのために、ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに定める本課程の教育内容を十分に理解し、配置されている専門基礎科目ならびに専門科目を学び、活用していくうえでの基礎学力を有することを入学者選抜の基準とする。

「求める学生像」を次のとおり定める。

・知的好奇心に満ち、常に向上心をもって知識の吸収に積極的であること。
・管理栄養士の資格取得というしっかりとした目的意識を持っていること。
・食と健康、社会・環境と健康との関わりに興味があり、健康の維持・増進ならびに疾病予防・改善に強い関心があること。
・管理栄養士の職を通して、食・栄養・健康・医療・福祉などの分野で社会に貢献しようという意欲と熱意を持っていること。
・栄養教諭の職を通して、児童生徒の発育・成長に関する食育に貢献しようという意欲と熱意を持っていること。
・食品衛生監視員や食品衛生管理者の資格を持って、各種施設・現場での食品衛生・管理に貢献しようという意欲と熱意を持っていること。

食物栄養学科 健康実践栄養士課程

食物栄養学科健康実践栄養士課程では、本課程の教育目標・内容を理解し、それにふさわしい基礎学力を有することを入学者選抜の基準とする。

「求める学生像」を次のとおり定める。

・知的好奇心に満ち、常に向上心をもって知識の吸収に積極的であること。
・栄養士およびその他の資格取得というしっかりとした目的意識を持っていること。
・栄養教諭の職を通して、子ども達の発育・成長に関する食育に貢献しようという意欲と熱意を持っていること。
・栄養、調理、料理など、食べることや作ることに興味を持ち、食文化の世界に魅力を感じていること。
・食生活と食文化のスペシャリストとしてフードビジネスや食のメディアの世界で実力を持って活躍しようという意欲と熱意を持っていること。
・運動（スポーツ）に詳しい栄養士として、健康支援活動の場で活躍したいという意欲と熱意を持っていること。
・食品の開発や安全管理に興味を持ち、企業活動の場で活躍したいという意欲と熱意を持っていること。